

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.98/2024.5]



「星図を宿す眼」ーガラスの街の壁画 内ヶ島幹子さん作

メダカの世界

観賞魚としても親しまれ、多くの人を魅了する、泳ぐ姿が愛くるしいメダカ。自然の中で生きる、この小さな魚の世界を、そっとのぞいてみました。

一番身近な小さな魚

「メダカの学校は、川の中〜」の童謡でお馴染みのメダカ。日本にすむ淡水魚の中で一番小さな魚だ。小さいながらも、田んぼや小川などで悠々と泳ぐ姿は、なんとも愛らしいものである。子どもたちに、田んぼや小川で泳ぐメダカを捕まえて、飼っていた人もいたのでは？

メダカは、江戸時代より観賞魚として

飼われていた。丈夫で育てやすく、繁殖がしやすいことから、今でも人気が高い。そんなメダカの魅力は、小さなからだに感じられる、力強い生命力であらう。特に、メスが産卵した卵を腹部にたくさんぶら下げている姿は、頼もしさを感じられる。昔から私たち日本人にとつてとても身近にいる、この小さな魚。豊かな自然と切っても切れない、まさに人と自然をつなぐ生き物の象徴ともいえるだろう。

暖かい季節では元気に泳ぐメダカも、冬になると冬眠。川底や水草の陰に隠れてじつと春を待つ。北海道以外の日本各地に生息し、最も北に生息するメダカは、氷が張るほどの冷たい水温から、三〇度を超える水温まで耐えることができる。

メダカの寿命は約一年半といわれ、さまざまなことを乗り越え、厳しい自然界を生き抜いている。

メダカはサンマと同じ仲間！？

もし、メダカが流れに流されて海まで下ってしまっても、海水に順応して生きることが可能です！実はメダカは、サンマやトビウオと同じダツ目に属す海水魚と同じ仲間なんです。ダツ目の祖先は、淡水から海水に進化したと考えられています。



力をあわせて命を守る

野生のメダカが生き延びていくために必要なことのひとつが、外敵から身を守ること。その手段には、大きく二つある。

一つは、群れでの行動。たくさんの仲間



と一緒にいたほうが外敵も狙いが定めづらくなり、危険度が下がるからだ。もし狙われたとしても、外敵に最初に気づいた一匹が逃げだせば、群れ全体がその一匹を追いかけ、逃げ切れる確率が高くなる。一匹よりも複数匹で泳いだほうが、危険を察知する力も上がるといふことだ。

もう一つは、保護色である。実は、周囲の環境や色にあわせて、からだの色を変えることができるのだ。周囲が白く明るい和白っぽく、土や泥などで黒っぽい場所なら黒く濃い色に変化し、外敵に食べられにくくしている。

力をあわせて命を守っているメダカ。いずれにしても、自然界で生き残っていくための重要な生存戦略となっている。

ちなみに、水槽で飼われているメダカは、あまり群れない。強いメダカが先にエサを食べに来たり、隠れ場所を確保するとい

メダカの暮らし

では、野生のメダカは普段、どんな暮らしをしているのだろうか。

メダカは泳ぐ力が弱い。そのため、流れがほとんどない田んぼや、流れが緩やかな小川などをすみかとしている。日の出とともに起きて動き始め、日が沈み始めるとだんだん動きが鈍くなり眠りにつく。日中はエサをとったり、産卵をして過ごす。エサは、水面に落ちてきた虫やプランクトン、コケや藻などさまざま。頭上の水面に浮かぶエサを見つけるのに活躍するのが、大きな目だ。目はとてもよく、しっかりと周囲を見ることができ、頭の上のほうのエサもしっかり見つけられる。エサを見つけたら、ついはむようにして食べるため、口は受け口になっている。よく観察してみると、下あごが上向きに突き出ているのがわかるだろう。



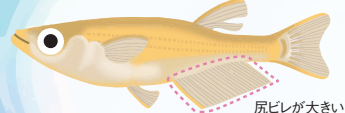
う。個性によるものか、強さによるものかはわからないが、野生のメダカとは違った動きが見られるのは、興味深い。

オスとメスを見分けるには？

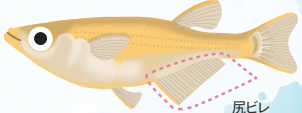
見分けるポイントは、背ビレと尻ビレ！

オス メスよりも大きい
背ビレに切り込みがある

メス お腹がふっくらしている



尻ビレが大きい



尻ビレ

オスは交尾のとき、この大きな尻ビレと背ビレでメスを抱きかかえます。

飼育してみよう！

オス3匹とメス2匹と一緒に育ててみましょう。観察していると、だんだん大きなオスがメスを独占ようになります。そして、オスはメスに気に入られようと、メスの前でクルクルまわってダンスする姿が見られますよ。

メダカに方言がある！？

特徴である大きな目が頭の高い位置にあることからつけられた、「目高(メダカ)」という名前。江戸時代は、一掴みで千匹捕まえらるる魚という意味から、「撮千魚」という漢字が持ち入れられていた。



Special

この純粋な名古屋メダカ、名古屋市内ではほとんど見ることができず、歴史的遺産として大切に保存されている。

日本から世界へ！

一九九四年、スペースシャトル「コロンビア号」で、日本のメダカが宇宙へ行った。飼育がしやすく繁殖サイクルが短いことから、無重力空間で飼育繁殖実験を行うの



東山動植物園 世界のメダカ館

開園時間／午前9:00～午後4時50分（世界のメダカ館は午後4時45分まで）
（入園および入園券の発売は午後4時30分まで）
休園日／毎週月曜日、年末年始（12月29日～1月1日）
※月曜日が祝日または振替休日の場合、その直後の休日出ない日が休園日になります。

メダカは絶滅危惧種

世界のメダカ館に一步入ったときに目に飛び込んでくる、日本の里山を思い起こさせる大きな水槽。ここで泳いでいるのは、「名古屋メダカ」。今から八〇年以上前に、現在の名古屋市内にある平和公園の池で採集され、飼育されてきたメダカの子孫だ。

探してみよう！

愛知県は名古屋という大都市がありながらも、今でもたくさんの野生のメダカが見られるそうです。特に、愛知県北部から西部にかけて多く生息し、比較的簡単に見つけられるので、ぜひ探してみてください！

お願い！

野生のメダカを守るために、飼育されたメダカを絶対に小川などに放流しないでください！

名古屋メダカ



ティウメダカ

展示はココだけ！
新種メダカ

琉球大学との共同研究で、世界メダカ館は未知のメダカを3種、インドネシアのスラウェシ島で発見！発見されたティウメダカ、ドビンドピンメダカ、ランダンギメダカを見られるのは、世界中も世界メダカ館だけです。

ランダンギメダカ



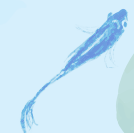
実は、日本の野生のメダカは生息数が減少しており、絶滅危惧種に指定されている。すみかとなる田んぼなどの減少、水質汚染、そして一〇〇年ほど前に蚊の駆除を目的に持ち込まれた外来魚のカダヤシにメダカの稚魚やエサが食べられてしまうなど、原因はいくつかある。メダカのすみやすい環境とメダカを守ることが、自然環境を守ることにつながっていく。

に最適な生き物として選ばれた。二週間にわたって飼育され、脊椎動物として世界で初めて繁殖に成功。二匹のペアから生まれたメダカたちは、無事地上へ帰還。その子孫が世界のメダカ館でも飼育されており、出会うことができる。



宇宙メダカの子孫

Special



日本のメダカの学名はオリジナス ラチペス (Oryzias latipes)。オリジナスはイネの学名の「Oryza」に、ラチペスはラテン語の幅広いという意味の「latus」と、足という意味の「pes」に由来し、「水田に生息する大きな尻ビレを持った魚」という意味を持つ。メダカと水田との関わりや、からだの特徴が読み取れる名前となっている。

また、日本各地にはさまざまなメダカの方言があるのをご存知だろうか。例えば、名古屋近辺ではウキスやウスケなど、三河地方ではメンパチやメンバコなど。全国に目を向けると、宮城県のアソビザツコ、長野県のメチャッコ、京都府のドンバイコなど、元の名前から想像できない方言もある。その数は約五〇〇〇以上で、愛知県だけでも約三五もの方言があるという。いろいろ調べていくとおもしろいかもしれない。

世界のメダカ館に行こう！

三〇種類のメダカに出会える！

世界のメダカ館は、東山動植物園内にある水族館だ。失われつつある日本の水辺と、生息数が減少しているメダカに関心を寄せてもらいたいという願いが込められ、一九九三年に誕生した。

メコンメダカ

（ベトナムのメコン川流域で生息／体長約2cm）



このほかにも、メダカのまわりにすむ水生昆虫や希少淡水魚、メダカと間違えやすいカダヤシの仲間など、約二〇〇種類

を展示。そのほとんどが、世界のメダカ館のバックヤードで繁殖されている。中でも国の天然記念物に指定されている淡水魚

レスリング ハーフピーク

（インドネシアに生息／体長 オス 5cm、メス7cm）



メダカと間違えやすいカダヤシ目のボロバンチャクス ノルマニ

◀キタノメダカ

全長 3.0～3.5cm
卵径 1.2mm 稚魚 5.0mm
キタノメダカには、からだの側面鱗に黒い色素が強くでた模様があり、背ビレの切れ込みがミナミメダカより深い特徴があります。



▶ミナミメダカ

全長 3.0～3.5cm
卵径 1.2mm 稚魚 5.0mm



日本にすむ野生のメダカには、青森から京都の日本海側にすむ「キタノメダカ」と、それ以外の本州から琉球列島と韓国の一部にすむ「ミナミメダカ」の二種類がいる。各地にすむメダカの遺伝子を調べると、この二種類を基に一〇以上のグループに分かれていることが確認された。気の遠くなるような時間をかけ、その地域の環境に対応しながら進化し、生態系の一員としての役割を果たすメダカ。アジアのみに生息しており、日本のメダカは一番北限にすむメダカになる。

日本のメダカは二種類

のイタセンパラ、ネコギギ、ミヤコタナゴ、アユモドキに出会えるのは貴重だ。

世界のメダカ館の魅力は、なんといても、世界で確認されている約四〇種類のうち、三〇種類のメダカに出会えること。



私には大きな転機が二つありました。一つは将来の進路を教員に決めた時。そしてもう一つは、教員としての転機で、愛知県教育委員会に異動をした時です。

一つ目の転機は、大学院の時に訪れました。漠然と研究者になりたいと考えて博士課程に進みましたが、哲学や思想の研究者への道は狭き門で厳しく、現実的な進路を考えるようになりました。ちょうどその頃、学習塾でアルバイトをしており、小学生と中学生に国語を教えていたんです。学びをとおして子どもと触れあい、子どもが伸びていく姿を間近で見られる仕事に楽しさや喜びを感じ、国語の教員として生きる道を選びました。

高校の国語という教科には、古文、漢文といった古典と現代文とがあり、現代文には評論やエッセイ、小説、詩歌もあつて、その中身は多様性に富んでいます。言葉を覚え、言葉の背景にある文化も学びますが、基本的にはコミュニケーションをとるうえで必要な言葉の使い方を学ぶ、技術教科なんです。授業では、生徒たちに四〇〇〇字ほどの評論文を二〇〇字にまとめさせたり、新書や文庫を一冊読んでいることを前提にテーマを設定して討論をしたり、自分の考えを論述したりする指導などをしてい

どの子どもたちにも 必要な教育が届くように。

栗木晴久（愛知県高等学校文化連盟会長
愛知県立明和高等学校 校長）



■栗木晴久 プロフィール

1966年、愛知県小牧市生まれ。筑波大学卒業後、大学院にて哲学・思想を研究。国語の教員として豊田西高校、松平高校、一宮高校を歴任し、2009年より愛知県教育委員会へ。2018年より岩倉総合高校の校長を務め、2020年より再び愛知県教育委員会へ。2024年より現職。高文連の会長に就任。高校時代、クラシックギター部に所属し情熱を注ぐ。その当時と同じ熱量を今の高校生たちにも感じ、部活動に燃える生徒たちを応援し、文化部の活性化を目指す。

ました。生徒は、どういう言葉を使い、どういう順番で述べるのかを整理しながら、一つの文章にしていきます。「文は人なり」とはよく言ったもので、生徒が持っている

語彙力、思考力、表現力が如実に文章に表れます。一つとして同じものではなく、読んで評価するのは大変でしたが、おもしろかったです。生徒同士で批評させることも

しました。中には、私が書いた例より優れたものもあり、私も鍛えられました。日本的な以心伝心も悪くはありませんが、話すにせよ書くにせよ、わかりやすく、論理的に伝えるための言葉の使い方を学び、きちんとしたコミュニケーションがとれる力を身につけることが大切だと思います。

二つ目の転機となった教育委員会には、二〇〇九年からの九年間と、二〇二〇年からの四年間の二度にわたり勤めました。教育委員会というところは、学校がうまく回っていくための黒衣のような存在とでもいいかもしれません。

生徒たちを直接指導する教員の仕事とはまったく違い、転職したような感じでした。教育に関してさまざまな課題意識を持つていらつしやる方々とも接し、多くのことを学びました。

素質の高い子、得意分野でこそ輝く子、うまく学校に馴染めない子、障害のある子、外国にルーツのある子など、さまざまな子どもたちがおり、それぞれの教育ニーズに応えていく必要があることに目を開かされました。そこで目指したのが、どの子どもたちにも学びやすい



教育環境を提供すること。不登校を経験した子にとつても学びやすいように全日制と定時制と通信制を一緒にしたフレキシブルハイスクールであったり、さまざまなタイプの中高一貫校であったり、夜間中学であったり。これまでの標準的な枠に収まりきらない子どもたちに必要な教育が少しでも届くように、と考えながら教育行政の仕事に携わってきました。

今年度私は、二〇二五年度から中高一貫教育を始める明和高校の校長に就任しました。混沌とした時代状況でも自分の

力で生きていける、そんな力を育てていきたいです。できれば、まわりの人を巻き込んで、一緒に社会全体を良い方向へ持っていけるような力も併せて身につけさせたい。そのために、子どもたちの羽を折るようなことはせず、自ら羽ばたく力を高める教育を実践していきたいと考えています。

明和中学校に入學する生徒たちには、「気づいたら思ってもいなかったところまで飛躍していて、自分自身が全面的に刷新されていた」というような学びを体験してほしいと願っています。そもそも人間とは、ままならないもの

です。教育は、そのままならぬものを意図した方向へ導いていくという、矛盾した営みなんですよね。それは教員にとつてだけでなく、集団の中で学ぶ生徒たちにとつても同じです。一人ひとり、いろいろな考え方や受け止め方があり、なかなか思いどおりにはならないものです。そんな時に、どのように相手とコミュニケーションをとり、折り合いをつけてやっていくのか。私はそのために必要なことを、飼っていた猫に教わったような気がしています（笑）。

猫は、現在四匹飼っており、学生時代にもけがをした猫を保護して飼っていました。猫には自分がありますから、人間の思うようにはなりません。そこが魅力でもあります。夜中に部屋中を走り回ったり、実にままならない存在です。しかも、人間に世話をすることを求めてくる。そんなままならないものと共に生活する中で、教員に必要なものを学んだのかなと思います。教員になることを決心した当時、友人から「おまえは教員に向いていない」と、言われたことがあります。その頃は未熟で、他者への配慮が足りない人間だったのだと思います。そんな教員に向いていなかった私が、なんとか教員として生きてこれたのは、猫のおかげかもしれません。――談――

聴く人の心に響くような歌声が素敵な、
安賜勳 Johannes さん。オペラ界でテノール歌手として、ドイツなどヨーロッパで活躍。二〇一九年より名古屋を中心にオペラやミュージカル、コンサートへの出演をはじめ、合唱指導など幅広い活動を行っている。

「オペラは劇、歌、オーケストラ、衣装、舞台美術などあらゆる芸術要素が詰まった総合芸術です。その魅力は生の声、生の音が楽しめるライブ感ですね」

と、安さん。だが、伝統あるオペラやクラシックは敷居が高いイメージが強い。そんなイメージを少しでも変えたいと思い、オペラやクラシック音楽の初心者でも気軽に楽しめるコンサートなどを企画している。その一つが、定期的に開催している『朝の音楽会』だ。毎回、魅力的なゲストを迎え、オペラをはじめミュージカルナンバーやポップスなどさまざまなジャンルの曲を披露。馴染みのある曲をオペラ歌手やクラシック歌手が歌うとどんな感じになるのか。その歌声の魅力に触れてほしいと思っている。

「皆さんに感動してもらええる音楽を届けたいというのはありますが、私が一番伝えたいのは、心。心が伝わるような歌声です」



歌詞の意味を考え、言葉を大切にしながら歌い、感じたことなどをコンサートで話すこともある安さん。お客さまがトークに耳を傾けてくれ、共感してもらえた時は本当にうれしいと教えてくれた。

安さんには、夢がある。この名古屋で、オペラを初めて観る人のために、本物のオペラ舞台を上演すること。しかも、誰もが鑑賞しやすい入場料で。初めて観るオペラが「すごい！」と思ってもらえたら、「次もまた観てみたい」という気持ちを持つてもらえ、ファンになつてもらえ、と思っているからだ。

夢への第一歩として、二〇二二年、地元の若手クラシック音楽家たちをメンバーに「フィデル室内オーケストラ」を主宰し、指揮者としても活動を開始。自身が企画する舞台で共演するなど、若手音楽家たちの活躍の場も広げている。

現在は、世界のオペラスターを招いた「Stars in Astuta」、指揮体験ができる「子供のための音楽会」などの公演を控えている。安さんの情熱が、次々と楽しい音楽の時間を創りだしていく。



オペラの魅力をもっと皆さんに——。心が伝わる歌声を届けたい。

オペラやコンサートなどの企画、制作、出演。

安賜勳 Johannes さん

第34回助成(個人)

ソウル国立大学卒業。ドイツ国立トロッシゲン音楽大学卒業。ドイツ国家演奏家資格取得。ヴァルセミア国際音楽コンクール(イタリア)歌曲部門1位をはじめ、韓国、ハンガリー、ドイツの数々の国際コンクールで入賞。16年間ドイツをはじめヨーロッパで活躍。2015年に「セイジオザワ松本フェスティバル」、京都二条城で小澤征爾氏とペーターヴェン「第9」のソリストとして共演。現在、名古屋芸術大学の非常勤講師。地域の皆さんを対象に合唱指導を行う「アン・コール」なども開催し、新たなクラシックファンづくりに尽力している。

木曾三川子ども狂言クラブでは、川や森の環境保全をテーマに、地域の歴史や伝承などを盛り込んだ新作狂言や子ども狂言を企画・制作、運営している。発足は二〇一〇年。きっかけは、脚本家であり代表の山川里海さんに届いた、海津市の小学校からの「学校で取り組んでいる治水保全を児童劇で発信したい」という依頼であった。

山川さんは、初めて手掛けた名古屋城本丸御殿復元狂言で、狂言には喜怒哀楽などを表す「型」があり、受け継ぎやすいことを知り、子ども狂言『失せうろこ』を創作する。上演は地元の人々にとっても喜ばれ、好評を得たことから、木曾三川子ども狂言として『狐鬼灯』『おそそ仁王』などが生まれる。

狂言や囃子の指導を行うのは、プロの狂言師や楽師。初めて触れる伝統芸能に「なんだらう」と思う子どもたちも、狂言師のメリハリのある稽古にどんどん惹きつけられ、楽しむようになる。

「本番前の子どもたちは、すごく緊張していますね。中には泣き出す子もいます。そんな時、ほかの子どもたちが変顔をしたり



子ども狂言「失せうろこ」

してなだめるんですよ。すると泣き止んで、しっかりと演じてくれます」

山川さんたち大人がハラハラしながら見守る中、子どもたちがお互いに支え合う姿は、感動ものだと教えてくれた。

「二つの作品を創り上げていく中で、子どもたちの絆が広がっていているのを感じ、うれしいですね」

子ども狂言以外にも、プロが出演する創作能楽も手掛けている山川さん。現在も、秋頃の上演を目指して、新作能楽『神剣草薙』を創作中。熱田神宮の三種の神器に纏わる歴史や伝承を盛り込んだ話だ。演じるのはプロの方たちだが、子どもたちを何とか参加させたいという強い思いから、市民参加による草薙謡隊を結成予定。参加者は一般からも募集し、地域の盛り上がりに寄与できればと考えている。

「伝統芸能に触れられ、自然環境の保全にも意識を留められるようなものを発信していきたいですね」

創作した能楽を地元の皆さんが大切にしてくれることが、継続の力になっている。

なごや妖怪狂言「冥加さらえ」



「おそそ仁王」囃子



「狐鬼灯」輪中の防災

代表の
山川里海さん

伝統芸能のおもしろさと、自然環境を守ることの大切さを。

地域資産を盛り込んだ創作能楽を制作・上演

木曾三川子ども狂言クラブ

第34回助成(団体)

2010年に発足。メンバーは子供から高齢者まで約120人。治水史跡と清流魚の保全がテーマの「失せうろこ」、輪中の防災史と観光資源がテーマの「狐鬼灯」、水郷の災害史と観光資源がテーマの「おそそ仁王」、なごや妖怪狂言「冥加さらえ」、熊本震災・豪雨災害復興応援の「熊本三獣士」などを創作、上演。清流ミナモ賞2010(岐阜県)、日本水大賞2018(日本河川協会)、土木広報大賞(土木学会)などを受賞。総合学習として子ども狂言を採り入れている小学校の活動もサポートしている。



2023年 12月

- 山口百子さん(日本画) 第34回助成・個人
山口百子 個展「せん」が、はじまる。〔月の庭(名古屋市東区)〕
- おもちゃばこキネン合奏団 第31回助成・団体
10周年記念演奏会〔ザ・コンサートホール(名古屋市中区)〕

2024年 1月

- むすめかぶき 第31回助成・団体
古典の日宣言16年目をむかえ『第1回 古典の日フォーラム 美しき愛知』『桐壺』舞踊と朗読にて出演〔名古屋能楽堂(名古屋市中区)〕
- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第69回定期演奏会 A、バッハ・コレギウム・ジャパン with ACO〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕
- 前川健生さん(オペラ歌手) 第34回助成・個人
チェコ音楽の祭典2023 Musica Pernerka 最優秀賞受賞記念 テノール・リサイタル 〜チェコとオーストリアを巡る旅(宗次ホール(名古屋市中区))
- 新野素子さん(染色) 第2回助成・個人
第8回 新野素子染色展(松坂屋名古屋店 本館8階美術画廊(名古屋市中区))
- 上山明子さん(彫刻) 第27回助成・個人
ファンデナゴヤ美術展2024「PINK shine」〔名古屋市民ギャラリー矢田(名古屋市中区)〕
- 川田英二さん(現代版画) 第15回助成・個人
川田英二／伊藤正人展(AIN SOPH DISPATCH(名古屋市中村区))
- 第10回日展名古屋展出演(愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区))
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人 「時の残しものー希望ー」
森克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人 「曙光」
堀龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人 「私は生きている」
- 劇団シンデレラ 第9回助成・団体
あつまれスカウトひろば「SDGs ミュージカル」に出演(レディヤンかすがい(春日井市))

2024年 2月

- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第70回定期演奏会 B、第71回定期演奏会 B、第72回定期演奏会 A〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕
- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
「タルシェフ もしくは、ペテン師」〔千種文化小劇場(名古屋市中千種区)〕
- 藤江博子さん(ピアニスト) 第22回助成・個人
今宵は Special な Concert 〜未来へつなぐ歌 そして命〜にピアノで出演〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕

2024年 3月

- もりっこ彩合唱団 第34回助成・団体
5th コンサート 〜みんなのいろ〜〔守山文化小劇場(名古屋市中千種区)〕
- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
特別演奏会 卓越したトランペットの妙技 イエルーン・ベルワルツ×服部孝也〔東海市芸術劇場大ホール(東海市)〕
- Office KAN(演劇) 第28回助成・団体
第2回 Office KAN キッズミュージカル「里美八大伝・流転」〔昭和文文化小劇場(名古屋市中千種区)〕
- 斉と公平太さん(美術制作) 第31回助成・個人
『画像生成 AI「もしも XX がジャクソン・ポロックのような抽象画を描いたとしたら」』〔プロンプト入力者 斉と公平太〕

2024年 4月

- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
第73回定期演奏会(愛知県立芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区))
第74回定期演奏会〔東海市芸術劇場大ホール(東海市)〕

仲間達の近況メモ

- 西村一成さん(絵画制作) 第20回助成・個人
「事由の洞窟」西村一成新作展〔ギャルリー宮脇(京都市)〕
企画展「むすんでひらいて」に出演〔岡崎市美術館(岡崎市)〕
- 谷川司さん(芸術活動) 第34回助成・個人
style ju pouring exhibition〔熱田 gallery ネ古民家〕
- 平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画) 第6回助成・個人
第3回 笑い(ラフター)ヨガ 大フェスタ 第2部ひらめのおしゃべりコンサートに出演〔東文化小劇場(名古屋市中区)〕

2024年 5月

- 西村同門会(能楽) 第22回助成・団体
第9回 西村同門会 雅遊会〔豊田市能楽堂(豊田市)〕
- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体
第98回定期演奏会〔新城文化会館大ホール(新城市)〕
- 愛知室内オーケストラ 第15回助成・団体
横山幸雄× ACO 特別演奏会、第75回定期演奏会
〔愛知県立芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体
「車のいろは空のいろ」、ミュージカル「あらしのよるに」
〔愛知県立芸術劇場大リハーサル室(名古屋市中区)〕
- 平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画) 第6回助成・個人
白鳥庭園「春浪漫」おしゃべりピアニストひらめ心の唄!〜若葉薫るさわやかメロディー〜〔白川庭園芝生広場(名古屋市中千種区)〕

書籍・会報誌等の発行

- 愛知歴史研究会 第7回助成・団体
2023年12月…「あいち歴史研究会誌」第181号発行
- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体
1〜5月…「江南郷土史研究会会報」539〜543号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体
1〜5月…郷土文芸誌「駒来」第624〜628号発行
- まつり同好会 第25回助成・団体
1・3月…「まつり通信」629・630号発行
3月…まつり85号発刊 特集「三信遠の芸能と信仰I」
- はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体
1・3月…「はんだ郷土史だより」第112・113号発行
- 岡崎地方史研究会 第34回助成・団体
1月…「岡崎地方史研究会便り」No.60 発行
3月…「岡崎地方史研究会 研究紀要 第52号」発行
- 野田史料館 第1回助成・団体
1月…「野田史料館報」第168号発行
- 長久手市郷土史研究会 第13回助成・団体
3月…「胡牀石」第63号発行
- 名古屋郷土文化会 第7回助成・団体
3月…「郷土文化」第78巻第2号発行

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

表紙作品

「星図を宿す眼」ーガラスの街の壁画
縦10×横10×高さ0.5cm 技法:ガラス胎七宝 素材:ガラス、銀線
内ヶ島幹子さん作(第33回助成)



●作者の言葉

古代メソポタミア時代に生まれたガラスに七宝を焼き付ける技法を使った作品。想像上のガラスの街、神秘的な壁画と象形文字と中心にある「眼」、それが指し示す星の地図をイメージしています。

先生が練習でこたわっているのは、部員一人ひとりの特徴を伸ばすこと。それぞれにあった個別の練習メニューを組み、苦手を克服しながら技を磨いていく。最近では、部員たちがYouTubeなどで見つけた、自分がやってみたい練習方法も、渡辺先生と相談しながら採り入れたりしている。

また、試合に勝つために渡辺先生が練習でこたわっているのは、部員一人ひとりの特徴を伸ばすこと。それぞれにあった個別の練習メニューを組み、苦手を克服しながら技を磨いていく。最近では、部員たちがYouTubeなどで見つけた、自分がやってみたい練習方法も、渡辺先生と相談しながら採り入れたりしている。



「渡辺先生は、一人ひとりをよく見ています。常にあなたのかく見守り、支える姿勢が、生徒たちからの信頼につながっているのだと思います」
校長である牧野美和先生の言葉のとおり、部員たちにとって渡辺先生は、つらい時や上手くいかない時に親身に話を聞いてくれる、乗り越える手助けをしてくれる頼りになる存在となっている。



切磋琢磨しあえる最高の仲間と一緒に。県大会出をめざして練習に励む。

卓球部

愛知県立新城有教館高等学校
第33回援助(高校生)

渡辺先生を顧問に、男子8名・女子7名の15名が活動(2024年3月現在)。団体では女子が令和2年度より毎年県大会へ出場。シングルスでも令和3年度より男女それぞれが県大会へ出場。他校との練習試合も積極的にを行い、部員たちがお互いに情報交換ができる交流の場にもなっている。渡辺先生は、部員たちが卓球をとおして大学へ進学した時、社会にでた時に、人にかわいがられる人間力を身につけることを願っている。

校長の
牧野美和先生顧問の
渡辺万葉先生副部長の
谷下澤美音さん部長の
山本晴登さん

第35回 (令和6年度)

助成対象者募集

募集期間 5月15日(水)～7月1日(月)

募集要項

一般助成

●対象

愛知県内を基盤に、教育及び文化活動の維持発展に努力し、地道に、継続的、独創的な活動を行っている個人又は団体で、次の条件を満たすものとします。

①行政機関(国又は地方公共団体)から助成を受けていないこと。

※助成が反復・継続ではない場合、助成金額が少額の場合はこの限りではありません。

②営利を目的としないこと。

(注)「教育活動」とは社会教育活動(スポーツを含む)を主体とします。「文化活動」とは音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、美術、工芸、文芸、郷土史研究等の分野とします。

●応募または推薦

原則として、個人又は団体からの直接申請としますが、第三者からの推薦申請も認めます。

●助成金の額及び件数

個人に対し、助成金は1件につき30万円を8名以内。
団体は1件につき40万円を10団体以内。

●助成金給付の決定及び通知

給付の決定は選考委員会の選考審査を経て、理事長が決定します。結果は書面にて申請者に通知します。

●助成金給付の時期

助成金は決定通知後、1ヶ月以内に給付します。

●申請方法

◇申請用紙はホームページよりダウンロードしてください。

◇所定の申請書に記入のうえ、5月15日(水)から7月1日(月)までに当財団へ郵送してください。(当日の消印まで有効とします。)

高校生への援助

●対象

愛知県内の高等学校における文化及び体育活動。

●援助金の額および件数

援助金は文化活動が30万円単位、体育活動が50万円単位で、各150万円以内。

●申請方法

「文化活動」においては愛知県高等学校文化連盟、「体育活動」においては愛知県高等学校体育連盟の会長推薦が必要です。

※その他、募集期間等については一般助成と同様です。

※応募の際の申請書並びに添付資料はご返却いたしませんのでご了承ください。

※応募された方の個人情報につきましては、当財団事業にて使用させていただき、当財団の個人情報保護方針に基づき適正に管理します。

お問い合わせ先

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号(愛知銀行本店内)

公益財団法人 愛銀教育文化財団 事務局

☎(052)262-9601 ダイヤルイン

<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>



あゆち第98号 ● 2024年5月

発行:公益財団法人 愛銀教育文化財団

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号

愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)

<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>

